

サムットプラカーン校での活動約2か月を経過して

埼玉親善大使としてタイに来てもうすぐ2か月が過ぎようとしています。

赴任先の、サムットプラカーン県は、首都バンコクの隣の県です。スワンナプーム国際空港がある県です。赴任先の学校は、バンコクから電車、バス、ソンテウという乗り物（小型トラックの荷台を改造した乗り物）を利用して、1時間くらいで行けるところにあります。

学校は公立の中高一貫校で、全校生徒数は約3,100人のマンモス校ですが、だいたいタイの学校はこのような形態の学校が多いようです。1クラスも50名くらいの生徒がいます。

タイは暑い国ですが、教室には冷房はなく扇風機だけで、行った当初は本当に暑くて私は毎日ボーっとしていたように思います。当然生徒たちは慣れてはいるものの、本当に暑い日はグッタリしていますが、授業中はいつも元気な声で日本語の勉強をしています。

日本語は専攻クラスと、選択クラスがあります。専攻クラスは高校生の50人単位のクラスが高校1年生、2年生、3年生ともに1クラス、選択クラスも各学年1クラスずつありますので、相当な人数の生徒が日本語を勉強しています。私はその中の、一部を除いたクラスの生徒と関わっています。日本語担当の先生が2人いますので、主に発音を担当したりしています。また中学生では、まだ文字を学ぶことはなく、本格的に日本語を学習しませんが、アクティビティや日本語クラブといった、日本の文化や活動を学ぶクラスがあります。このアクティビティや日本語クラブの中学生（一部高校生）に対して日本を紹介する活動を主に私がやっています。といってもタイ語がよくできないので、タイ人の先生と一緒にやっています。

この活動で今まで行ったことは、紙相撲や日本語の歌、あやとり、折り紙、七夕の飾り作り、ひらがなビンゴなどです。いろいろ工夫して物を作ったりしています。先週は七夕まつりを実施しました。これは高校生と先生が相談して、何をするか決めました。浴衣を着たり、たこ焼き、お寿司、タイの食べ物、飲み物のお店を出したり、短冊に願い事を書いたりするコーナーも作りました。買い物も生徒と一緒にいき、食べ物も一緒に作りました。タイの人はみんなたこ焼きがとても好きですが、チリソースなどをかけて食べるので、少し驚きました。七夕の日はもちろん日本風の食べ方を紹介して作りました。

タイの中高生はみんな本当に明るくて、男女の別なくじゃれあっている様子は日本の中高生よりも少し幼いようにも思えます。日本では深刻な問題である「いじめ」は、先生に聞いたところでは、あまりないような返答でした。また、こちらの学校に来て驚いたことは、生徒の多くは絵や工作が上手なことです。日本では中高生に何かの課題を絵で表現させたり、工作を作らせたりすることは、小学校以外ではあまり多くないように思うのですが、タイでは中高生でも課題を絵や工作で表現させることが多いです。例えば、日本文化の一つである食文化について調べたことを絵で描いてきます。それがびっくりするくらい上手な生徒が多いです。そして、色鉛筆を常にカバンに入れて持っている生徒がたくさんいるということにも驚きました。タイの生徒はこのように小さい時から絵や工作による表現方法を身につけ、本当にそういう表現方法が好きなのだな一と思いました。時々日本語の授業中にもノートに絵を描いている内職組もいます。

タイは「微笑みの国」とよく言われます。その意味が分かるのは挨拶です。タイは朝も昼も夜も挨拶は、「サワディー カー」と言いますが、その時にはお祈りをするように胸元で手を合わせ（ワイと言います）、必ずニ

ニコリ笑顔です。廊下で会っても「サワディー カー」とニコリです。これは本当に気持ちが高く、「微笑みの国」を実感しています。

タイでは日本にない果物がたくさんあり、今はドリアンやマンゴスチン、ランプータン、ジャックフルーツなどが出回り、学校の先生たちも持ってきて食べさせてくれます。ドリアンはまだ食べたことがないのですが挑戦してみたいと思います。タイの食べ物は、私には少し辛すぎるものが多いです。七夕の出し物で生徒が作っていた青いマンゴーのサラダも辛かったですが、とても美味しかったです。そのうち辛いものにも慣れるかと思っています。

最後に、私には埼玉親善大使として埼玉を紹介する任務があるのですが、それがまだできていません。今、日本の中学生、高校生についてなど日本を紹介する教材を作成中です。その次に埼玉をたくさん紹介していきたいと考えています。「東京」はほぼ全員が知っています。その隣である埼玉を知ってもらい、ぜひ生徒たちにも将来行ってみたいと思ってもらいたいので、頑張って紹介するつもりです。



高校1年生の教室



七夕まつり



通勤のソンテウ